

XII. 保護者及び担任(教員・保育士等)の意識・参加と地域のサポート

■周りの大人(保護者や教員・保育士等)の行動と意識が幼児に与える影響

どのような要因が幼少の頃の行動、とりわけ身体活動を決定づけるのかは様々な要因が複雑に絡み合っているため、どれか一つに絞ることは難しい。

しかしながら、「親が歩いて買い物に行くから、子どもと一緒に歩いてついて行く」など、誰しもが経験しているように、幼少の頃の活動は、保護者を主とする周りの大人からの影響を受けることが多い。一般的には中学生くらいになると周りの大人の影響は限定的になると考えられるが、児童前期や幼児期など年齢が小さくなればなるほど、周りの大人、すなわち、保護者や教員・保育士等の影響は強くなると考えられる。したがって、幼児を対象とする本事業では、保護者や教員・保育士等の意識や行動が、高い割合で直接的に幼児の行動を規定していると考えられることができる。

■保護者の生活習慣と子どもの生活習慣(就寝時刻と朝食摂取)との関係

今回、協力園を併せ、3年間にわたってのべ1万人以上の保護者を対象として行ったアンケート調査(結果は図表9-1-1~9-5-1)において、周りの大人の意識や日常の行動と幼児の基本的な生活習慣や行動などが強く関係している結果となった。例えば(図表9-1-1と9-1-2)、本事業に参加した幼児の平均就寝時刻が、21時08分であったのに対し、25時(夜中の1時)以降に寝ている保護者の子どもの就寝時刻は、21時23分となっており、平均で15分ほど遅く寝ていた。他方、20時台や21時台に就寝している保護者の子どもは、各々、20時26分、20時49分と20時台には寝ており、保護者が早く寝ると、それに伴って「子どもも早く就寝する」ことが明らかになった。同様に、朝食摂取状況に関しても、朝食を毎日摂る保護者の子どもは、95.7%が「毎日、朝食を摂取している」のに対し、朝食を「ほとんど食べない」保護者の子どもは、70.3%しか、「毎日、朝食を摂取していない」結果になっていた。これら2つの結果をみると、子どもと保護者の生活習慣が強く関係していて、保護者の規則正しい生活習慣が幼児の望ましい生活習慣を形成する一つの要因になっていることが考えられる。

■帰宅後の幼児の活動への影響

次に、本実践によって、帰宅後の幼児の外遊びが活発になった項目を一部挙げてみる。「戸外で主に遊ぶ場所はどこですか」の問い(図表9-3-1)に関しても、実践園では「家の近くの路地や空き地」との回答が、1年目では20.6%であったのに対し、3年目では27.1%に増加していた。協力園では、20.1%から22.2%の増加であり、これらを比べると、実践園での変化は大きく、このことは今回の事業の成果といえる。つまり、実践活動は幼稚園、保育所で行われたが、幼稚園、保育所での習慣が帰宅後にも持続し、幼児の行動に影響を与えていると考えられる。

本事業のように、幼稚園、保育所や学校で生活習慣・運動習慣の確立及び体力向上のための実践活動を行うことの意義は、我が国の幼児全体に実践活動の波及効果がもたらされ、体力向上が図られることにある。しかしながら、実践活動として幼稚園、保育所のみでしか身体を動かさないなら、当然のことながら幼児たちにとって効果的な体力向上にはつながらない。特に幼児期の主たる身体活動は、「自発的な外遊び」であるため、体力向上にとっては日常的な「外遊び」を幼児に根付かせることが重要で、家庭や地域において様々な条件を整える必要がある。

■ 教員・保育士等の意識と行動の変化

今回の調査からは教員・保育士等の意識と行動の変容についても次のような成果がみられた。例えば、図表 10-1-2 にあるように、体を動かす遊びや運動に関して、「いつも子どもたちといっしょにしている」または「よく子どもたちといっしょにしている」と回答した教員・保育士等は、実践園において、1年目が87.6%であったのが、3年目には94.1%と増加した。協力園では、85.4%から87.9%の2.5ポイントの増加であった。また、「現代社会において、子どもは体を動かす遊びや運動・スポーツをする時間が特に重要である」との質問（図表 10-2-1）に対して、実践園で「そう思う」と回答した教員・保育士等は、1年目が62.1%であるのに対し、3年目では77.0%と、14.9ポイント増加していた。協力園では、67.6%から68.2%とほとんど変化がみられなかった。幼児が身体を動かすことの重要性を認知するとともに運動・スポーツを重視する意識が高まったと考えられる。他にも、教員・保育士等の意識と行動の変容に関して、同様の結果（図表 10-2-2 や 10-2-3）が複数みられており、本事業の1年目と3年目のデータを比較すると、保護者や教員・保育士等の意識と行動の変化が、幼児の身体活動の増強や体力向上に寄与したと考えられる。

■ 地域のつながりで子どもの活動をサポートすることの大切さ

次に、子どもの身体活動が保証される望ましい地域の環境条件については、物理的な環境があげられる。例えば、「近くに安全に遊べる公園がどのくらいあるか」等である。しかし、これらの条件以上に、人々の結びつきや地域のサポートをどの程度享受できるかが重要である。地域の人からボランティアとして絵本の読み聞かせをしてもらったり、昔の遊びを教えてもらったりすることがこれに当たるだろう。また、現代社会においては、安心して外遊びできる環境づくりを行う必要があり、地域で子どもを育てる意識が大切である。最近の研究では健康とソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の関連性が注目されており、その概念には、地域サポートが包含されている。地域からいろいろな恩恵を受けている人や地域の人とのコミュニケーションが頻繁な人ほど、「健康な割合が高い」ともいわれている。このように日常的に近隣同士で交流を深めることが、子どもたちの健康や体力向上に貢献していると考えられることを、周りの大人たちは今以上に自覚することが重要である。

※参考文献は 180 ページ参照